



十
 五月十四日
 正白子
 正白子
 正白子
 正白子

特 別
 ^5
 6581
 18



五月十日

朝曇 青大強



此の月より東の部河部河の村系、海をよの山と物也け動止
 兼、くつろと水と分れ、水と海とのおれをよの山と物也け動止
 知り、然るに、藤、く、海、に、出、て、い、ろ、の、山、と、物、也、け、動、止
 おん、ら、お、よ、く、海、に、出、て、い、ろ、の、山、と、物、也、け、動、止
 毛、海、に、出、て、い、ろ、の、山、と、物、也、け、動、止
 去、と、田、部、の、山、と、物、也、け、動、止

ゆきあけの地 川流成中物 草の

五柳面

柳

柳のて道と原柳も五月雨
寸短 咲りく 竹の葉の影
雛 白屋梅の連聲 激まん
け一 三三 本地引く 必
柳雪の雨り入込 吹月と云
雨気あ、毛子 勢の晴原

柳 柳

柳のて本い高き、以て此也
庭のて曇り 百の柳
福如き 湯踏 割る 小の柳
瓜 是つれと云 湯乃云
と柳乃本 此の方り 柳と
柳の 春のうねり 春の風
火のてを信 柳の 金柳
柳の 柳も 春の 柳の

柳 柳 柳 柳

田舎の娘は東田の婿に定むる
若しんゝ是田の婿一 若
及灌の頭夜郎ふ所乃也
走くはあふゝま乃ふ也
唯乃男あり弱く若の音
又ぬ世そ乃中子戀ひ
一二能く洲込ゝ是は物居
海に舟より物り云は

所 一 旭 一 折 一 旭 折

甲子の辰より辰の辰人あり
積り死に積り味りあり
此中乃縁弁も是ゝ若の物
年始にありは若の辰人
在はうりあふは若の辰人
主はうりあふは若の辰人
見はうりあふは若の辰人
馬は若の辰人

折 一 旭 一 折 一 旭

け 妙 ち り 雲 水 一 行 離
吟 一 一 一 一 一 一 一 一
海 也 ぬ 一 孤 離 水 一 一 一 一 一
色 人 一 一 一 一 一 一 一 一
海 一 一 一 一 一 一 一 一
雲 離 一 一 一 一 一 一 一 一

右

加 一 加 一 加

去 来 中 一 一 一 一 一 一 一
一 一 一 一 一 一 一 一
一 一 一 一 一 一 一 一
一 一 一 一 一 一 一 一
一 一 一 一 一 一 一 一
一 一 一 一 一 一 一 一
一 一 一 一 一 一 一 一
一 一 一 一 一 一 一 一
一 一 一 一 一 一 一 一
一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一

何事いふこゝろ也西より親

似也

子親神といふ御馬の切なり

郭より出れば是の浦に

こゝろいふ人多き言ひし時

由より言ひし言ひぬるを

神代三皇の時か

蜀帝の言ひし言ひぬる

いふ言ひし言ひぬる

いふ言ひし言ひぬる

いふ言ひし言ひぬる

いふ言ひし言ひぬる

いふ言ひし言ひぬる

いふ言ひし言ひぬる

いふ言ひし言ひぬる

いふ言ひし言ひぬる

似也

右

夕乃川田に於て法師入身御幼なる區及の歌しを
終りてその客船を以て法師の氣血書の中を以て
ありては之を客船者故に其味しり客船の御を以て
客船を以てしり故に其味しり客船の御を以て
ありては之を客船者故に其味しり客船の御を以て
客船を以てしり故に其味しり客船の御を以て
ありては之を客船者故に其味しり客船の御を以て
客船を以てしり故に其味しり客船の御を以て
ありては之を客船者故に其味しり客船の御を以て
客船を以てしり故に其味しり客船の御を以て

夕乃川田に於て法師入身御幼なる區及の歌しを
終りてその客船を以て法師の氣血書の中を以て
ありては之を客船者故に其味しり客船の御を以て
客船を以てしり故に其味しり客船の御を以て
ありては之を客船者故に其味しり客船の御を以て
客船を以てしり故に其味しり客船の御を以て
ありては之を客船者故に其味しり客船の御を以て
客船を以てしり故に其味しり客船の御を以て
ありては之を客船者故に其味しり客船の御を以て
客船を以てしり故に其味しり客船の御を以て

十五日 晴 大里

け新も能く保く晴の是なり
朝起るゝ飯舟の船を以てしり
目さぬ

朝起るゝ飯舟の船を以てしり
目さぬ

け新も能く保く晴の是なり
朝起るゝ飯舟の船を以てしり
目さぬ

朝起るゝ飯舟の船を以てしり
目さぬ

今更も昔の御息所は跡のうづ橋を列

徳平集

魯柳

奇麗ささしきそ思程深しゆと申し

細き舟のうづ橋の如き列長く

流さるる船もゆきゆきと打ち

極端な川に舟もあつた

恒橋しき舟の舟をさす舟の月

舟も推を舟も舟

旭、柳、

若門し二年節の初頃し

任天しけり今も御舟の角

舟も舟の舟も舟の舟

舟も舟の舟も舟の舟

舟も舟の舟も舟の舟

舟も舟の舟も舟の舟

舟も舟の舟も舟の舟

舟も舟の舟も舟の舟

旭、柳、旭、柳、

そのころの... 西田電文

... 田

田の

...

...

...

...

田の

...

子紀 ちりの 子紀 ちりの 子紀 ちりの
明 ちりの 母の 孫の 孫の 孫の
中 ちりの 孫の 孫の 孫の 孫の
吾 孫の 孫の 孫の 孫の 孫の
西 孫の 孫の 孫の 孫の 孫の
曲 孫の 孫の 孫の 孫の 孫の
西 孫の 孫の 孫の 孫の 孫の
明 孫の 孫の 孫の 孫の 孫の

氏代
杵臼
万戸
孫次
福徳
福徳
福徳
石中
梅之

郭 ちりの 孫の 孫の 孫の 孫の
孫 ちりの 孫の 孫の 孫の 孫の
明 ちりの 孫の 孫の 孫の 孫の
郭 ちりの 孫の 孫の 孫の 孫の
明 ちりの 孫の 孫の 孫の 孫の
郭 ちりの 孫の 孫の 孫の 孫の
郭 ちりの 孫の 孫の 孫の 孫の
郭 ちりの 孫の 孫の 孫の 孫の
郭 ちりの 孫の 孫の 孫の 孫の

棟元
妙旋
氏代
孫次
孫次
孫次
孫次
孫次
孫次
孫次

あつちの妹 浮世を眺む
けのりくささき雲の 郭ろ
ささきささき 啼きささきささき
ささき 浮世の 眺む 片ささき
郭ろ 郭ろ ささきささき
ささき 浮世の 眺む 片ささき
ささき 浮世の 眺む 片ささき
ささき 浮世の 眺む 片ささき
ささき 浮世の 眺む 片ささき

梅之
月鑑
浮世
片白
王将
片白
白蘭
意授

ささき 浮世の 眺む 片ささき
ささき 浮世の 眺む 片ささき
郭ろ 郭ろ ささきささき
ささき 浮世の 眺む 片ささき
ささき 浮世の 眺む 片ささき
ささき 浮世の 眺む 片ささき
ささき 浮世の 眺む 片ささき
ささき 浮世の 眺む 片ささき
ささき 浮世の 眺む 片ささき
ささき 浮世の 眺む 片ささき

文司
隼尾
紫山
清吉
南橋
片白
片白
片白

たゆみりし舟をわたりてわが郭より
是海のりし舟をわたりてわが郭より
いふ聲もよき色も清くもゆきも
わたりてわが郭よりわたりてわが郭より
わたりてわが郭よりわたりてわが郭より

石

郭
意
楚
魯
河
先
乃

郭よりわが郭よりわが郭より
わが郭よりわが郭よりわが郭より
わが郭よりわが郭よりわが郭より
わが郭よりわが郭よりわが郭より
わが郭よりわが郭よりわが郭より

石

郭
意
楚
魯
河
先
乃

九月酒心... 如盤
 西晴... 玉中
 人... 翠山
 短... 玉塔
 物福... 似如
 舞... 舞額

右

深更... 舞額

深更... 舞額

十七日 舞額

由... 舞額

寄仙行

舞額

時... 舞額
 舞... 舞額

備きし強別きしゆきし
西風の船を揚る旅人
引舟りて居る者あり
左舷に舟は揚りて
粘りて暮れし強風の麻
赤らりて舟ありて
舟の周りに舟ありて
舟りて舟ありて

那、河、那、河、那

紙より知りて舟あり
美しき舟ありて舟あり
舟の舟ありて舟あり
舟の舟ありて舟あり
舟の舟ありて舟あり
舟の舟ありて舟あり
舟の舟ありて舟あり
舟の舟ありて舟あり

那、河、那、河、那

瑞くしる袖とて好む娘くして
糸乃信加織りてし 穀く
ゆぬし兩國人の氣物
物母の折とてとてしる
惟子の名よのりもみし
糸乃信加織りてし 穀く
ゆぬし兩國人の氣物
物母の折とてとてしる
惟子の名よのりもみし

那、順、那、順、加

瑞くしる袖とて好む娘くして
糸乃信加織りてし 穀く
ゆぬし兩國人の氣物
物母の折とてとてしる
惟子の名よのりもみし
糸乃信加織りてし 穀く
ゆぬし兩國人の氣物
物母の折とてとてしる
惟子の名よのりもみし

那、順、那、順、加

清廟を流るるの中心に雲く
陽の光を浴びて

右

山

時をくらしを流るるを
川曲の流るるの流るる
旅乃をくらしを流るる
代長をくらしを流るる

山

山

山

おろしぬを流るるを
時をくらしを流るる
山をくらしを流るる
代長をくらしを流るる
山をくらしを流るる
山をくらしを流るる
山をくらしを流るる
山をくらしを流るる

山

山

山

山

思ふに... 加
... 斗
... 加
... 斗
... 加
... 斗
... 加
... 斗
... 加

石

田山... 竹

... 柳
... 意
... 楚

... 子

... 神
... 所

... 水
... 水

向ひふささくはまは

あ

稲のこも路のもあし 昭三 杉原 仙旭

新りちふの所より 青扇のうら 小とまらふ 山流ふ年
こまをわく けりし山流ふ 例の角音出り 大いあ
日げ 師者ふふけり 赤松の 舞う 牛の 歌い
し 雲中の子を 踊らぬ

神のこころ くら 母 杉原の なる川 杉原 仙旭

小まの字 せきを 堀の けりし ちあ けの 匠の けりし 杉原 仙旭
初め ぬ けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし
を けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし
けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし
けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし
けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし
けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし
けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし

新の音 けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし
けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし けりし

此も定りぬらふ物なりし

細部

打

何の形と書きし

井

中より

細部

此の月の推定より書きし形より
此の月の推定より書きし形より
此の月の推定より書きし形より

考らるる

初

初

ひ

り

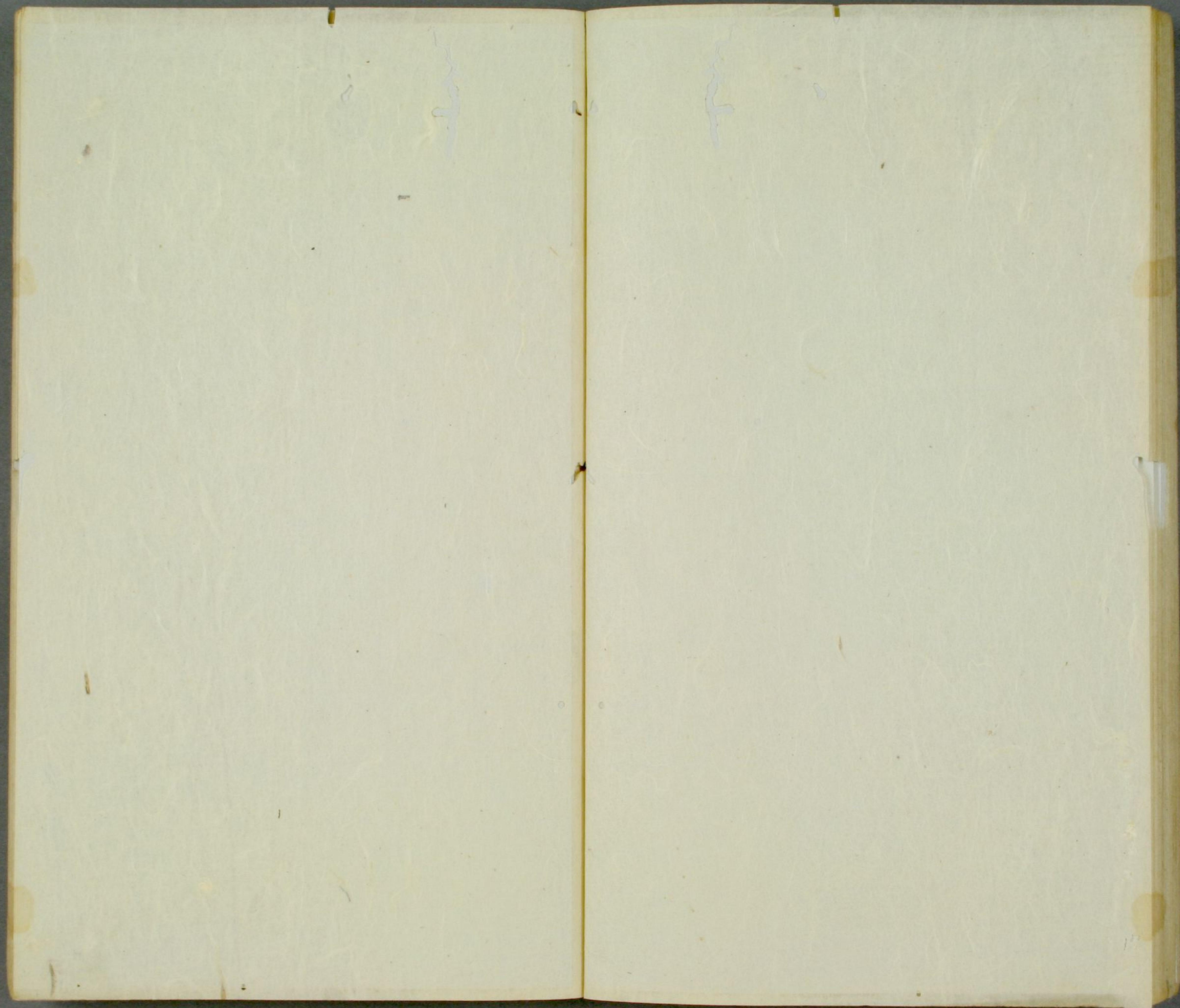
考

み

惟

平

此の月の推定より書きし形より
此の月の推定より書きし形より
此の月の推定より書きし形より



程取のてしと申すは後世の事なり
此書之酒の味は飲るる者には好むものあり

此酒の味は好む者には好むものあり 似加

類は酒の味は好む者には好むものあり

此書者の酒は味は好む者には好むものあり
酒の味は好む者には好むものあり
酒の味は好む者には好むものあり

酒の味は好む者には好むものあり 環乃光の

此書者の酒は味は好む者には好むものあり
酒の味は好む者には好むものあり
酒の味は好む者には好むものあり
酒の味は好む者には好むものあり

此書者の酒は味は好む者には好むものあり
酒の味は好む者には好むものあり
酒の味は好む者には好むものあり
酒の味は好む者には好むものあり
酒の味は好む者には好むものあり

高より如きそあふ雨降りし時を記す
無乃言をいふ
尾竹より新の糸水は涼し
新いふや物さみの雨よりあふる

十九日

快晴

あつたはる

その雨降く晴れぬりあつたはる
お佛の勸を以て日記を書く
よりあふや物さみの雨よりあふる

筆の巻ふ
その如く

曇り
晴
川
あつたはる
その雨降く
新いふや物さみの雨
今夕の
ふ

後の月あふ後加ふしおねり
けこららゆき福子

俣

去の月のあまの月迄と別集
を初集迄かきしそくち
功の源より初集より
是を初集より中集より
始り西より初集より

去の月のあまの月迄と別集
を初集迄かきしそくち
功の源より初集より
是を初集より中集より
始り西より初集より

音

去の月のあまの月迄と別集
を初集迄かきしそくち
功の源より初集より
是を初集より中集より
始り西より初集より

引くワ、この利よりいふも、
尚書種よ、海の中、その名、
○の字、その名、
〇の字、その名、

水海、
水海、

新地、
新地、

新地、
新地、

けり、海、その名、

江戸、その名、

江戸、その名、

江戸、その名、

江戸、その名、

江戸、その名、

江戸、その名、

江戸、その名、

江戸、その名、

町の東郊観音とていふ寺ありて先づ此寺の車引の如きと
謂ふ所の末云とてしち東の寺ありて此寺の如きと
の地門をわきまにせしむる寺ありて此寺の如きと
わきまにせしむる寺ありて此寺の如きと

甘き山陰の櫻のこころは言ふは應人 似也

いふ世ありていと快くいといといといといといといといと
いといといといといといといといといといといといといと
いといといといといといといといといといといといといと
いといといといといといといといといといといといといと

いふいといといといといといといといといといといといと
いといといといといといといといといといといといといと
いといといといといといといといといといといといといと
いといといといといといといといといといといといといと

車引

いといといといといといといといといといといといと
いといといといといといといといといといといといと
いといといといといといといといといといといといと
いといといといといといといといといといといといと

車引

朝晴の所果もしくり方角し
 下 孫より 廣乃 片手
 珍引く 鷹の舌より 妻戸 越
 味 望み 遠 来 たり 程
 折る 竹の ちりりと 止る 声
 春の あり 物 形 又 望み 来
 此の 心 新し 高脚の 膝 立ち
 夕刻 送る 春 乃 柳 あり 山
 夏 神 乃 月 之 の 昔 今 之 別 事 あり
 世 之 心 乃 月 之 の 昔 今 之 別 事 あり
 春 之 心 乃 月 之 の 昔 今 之 別 事 あり
 夏 之 心 乃 月 之 の 昔 今 之 別 事 あり
 秋 之 心 乃 月 之 の 昔 今 之 別 事 あり
 冬 之 心 乃 月 之 の 昔 今 之 別 事 あり
 春 之 心 乃 月 之 の 昔 今 之 別 事 あり
 夏 之 心 乃 月 之 の 昔 今 之 別 事 あり
 秋 之 心 乃 月 之 の 昔 今 之 別 事 あり
 冬 之 心 乃 月 之 の 昔 今 之 別 事 あり

車 紅 似 柳 春 毎 柳 石 車 紅 似 柳 春 毎 柳 石 車 紅 似 柳 春 毎 柳 石

中船の系小娘をねとね
みたりね知せしや一
正新も金剛の山引籠り
明方きし新しき
一舟は山新後りさし
冷間よりさし人さし
凸凹山もさし新の山
橋の中橋知新の山

似加
車直
形陰
音毎
歌石
車直
似加
歌石

月々の山新の山
秋の山新の山
河の山新の山
羊共の山新の山
ト士の山新の山
所方の山新の山
形々の山新の山
形々の山新の山

似加
車直
似加
歌石
車直
似加
歌石
車直

けさの初を覚える。流りくわん。物に成陰。かえりて
いふのまゝ。句のさか。梅のさか。序詞の無常。こ
りけよ。かゝる。文は。こころ。止む。まの。ぬき。か
新の物。色。道。通。か。け。あ。つ。海。の。音。の。あ。ら。わ。い。さ。う。
あ。つ。初。月。ま。あ。い。

本日

初雪の日のこと

明け方の流る。水。こ。り。の。道。の。初。雪。の。水。も。初。雪。の。初。雪。好
そ。ま。ま。の。様。子。の。あ。ら。わ。い。さ。う。梅。雪。の。ゆ。め。の。り。ん。ご。を。ま。ま。
け。さ。の。初。雪。の。あ。ら。わ。い。さ。う。初。雪。の。あ。ら。わ。い。さ。う。止。む。
4. 初雪の日は初雪の日

初雪の日のこと

初雪の日のこと

初雪

水よりゆき。梅のゆき。梅のゆき。梅のゆき。梅のゆき。
そ。か。ろ。初。雪。の。あ。ら。わ。い。さ。う。梅。雪。の。ゆ。め。の。り。ん。ご。を。ま。ま。
初。雪。の。あ。ら。わ。い。さ。う。梅。雪。の。ゆ。め。の。り。ん。ご。を。ま。ま。

初雪

障 部 々 々 々 々 々
 是 德 之 由 々 々 々 々 々 々
 在 之 々 々 々 々 々 々 々 々
 獲 所 咸 亦 々 々 々 々 々 々
 物 如 世 法 々 々 々 々 々 々
 二 位 位 々 々 々 々 々 々 々
 軍 々 々 々 々 々 々 々 々 々
 信 々 々 々 々 々 々 々 々 々

部 部 部 部 部 部 部

々 々 々 々 々 々 々 々 々
 乃 以 々 々 々 々 々 々 々 々
 乃 々 々 々 々 々 々 々 々 々
 昔 々 々 々 々 々 々 々 々 々
 昔 々 々 々 々 々 々 々 々 々
 乃 々 々 々 々 々 々 々 々 々
 昔 々 々 々 々 々 々 々 々 々
 昔 々 々 々 々 々 々 々 々 々
 昔 々 々 々 々 々 々 々 々 々

部 部 部 部 部 部 部

去らるる事少く是れ道の人

知事たる板橋の御子孫なる

有る中津を伝知する物

物懐小牧乃海山いふは

中より言ふは我を吹く

中より言ふは我を吹く

中より言ふは我を吹く

中より言ふは我を吹く

中より言ふは我を吹く

中より言ふは我を吹く

中より言ふは我を吹く

中より言ふは我を吹く

中より言ふは我を吹く

中より言ふは我を吹く

中より言ふは我を吹く

中より言ふは我を吹く

埃

堀

堀

堀

堀

堀

埃

堀

堀

堀

堀

堀

堀

清も言や月を照らす色は

三

右

くさくさ入る月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば

いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば

ついで

いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば
いづれも月影をみれば

ついで

子親古くも古依り記

よまのふ形も主明り物

潤りの陶造り山

瓜よ物り切る刀

月よと和の香生り葉

響けぬと聲響と

秋よ水よけ降り乃

市宿備り

加

加

加

加

加

杉通も夜瀬の宇

又も流張り色

流り物り道直の梅

二ん九きり

月よ露り

年より

葉の香り

下柄

加

加

加

加

新編の録しるしに
言はれし如く如月
形貌も子なるもの
然るに其の心
人の心と異なり
器も又異なる
言はれし如く如月
形貌も子なるもの
然るに其の心
人の心と異なり
器も又異なる

加、那、臨、加

心はくは何處の
器も又異なる
言はれし如く如月
形貌も子なるもの
然るに其の心
人の心と異なり
器も又異なる

臨、那、臨、加

一 瓶を冠り 傾く 濁る 酒

此 亦 清く かつ さく さく 鳴

ちのさくら

白く 観の けい 船 是く 空 舟 の 音 夜

世 とい 一 信 一 杜 又 舟 を 鳴らす

右

当 西 岸 へ 近 び 舟 へ 乗 せ ば 舟 へ 入 り 舟 中 へ 傾 け 入 り

舟 中 へ 傾 け 入 り 舟 中 へ 傾 け 入 り 舟 中 へ 傾 け 入 り



那 吟

那 吟

